



＊それいゆはフランス語で太陽＊

No.63
平成23年 12月 5日号
草加市男女共同参画情報紙「それいゆ」

■ご意見・ご要望をお寄せください■

発行 草加市自治文化部人権共生課

企画・編集 「それいゆ」編集協力員

☎048-922-0825

☎048-927-4955

〒340-8550 草加市高砂1-1-1

E-mail:jinken-kyosei@city.soka.saitama.jp

青鞥（せいとう）という雑誌を知っていますか？明治末の日本では良妻賢母が女性の道で、女性に選挙権は無く政治活動も禁じられていました。そんな時代に平塚らいてうは日本女子大学の同窓生と、日本最初の女性による女性のための文芸誌「青鞥」を創刊しました。（1911年）。

青鞥とはブルーストッキングの和訳で、当時ロンドンで女権を唱えた女性達のことをそう呼んでいたのに因んで命名されたとか。らいてうが書いた創刊の辞「元始女性は太陽であった」は大きな反響を呼んだそうです。フランス語で太陽はそれいゆ。この情報紙の名称になっています。青鞥創刊から100年経ちました。女性は太陽のように輝いている時代になってきたでしょうか？

家庭では



◇女性も男性も一人ひとりが家族の一員として、お互いを思いやり、子育てや介護、家事を積極的に担っています。

◇性別ではなく個人の能力や、やる気に基づいて公平・公正な評価が行われ、男女がともにいきいきと働いています。

職場では



くらしを支えあう 男女共同参画社会

地域では



◇古い慣習が見直されて男女が対等に地域活動に参画し、町会・自治会等では女性の会長や役員等もたくさんみられます。

◇人権尊重の意識を基礎に、性別にとらわれず子どもたち一人ひとりの個性を生かし、多様な能力を伸ばす教育が行われています。

学校では



くらしを支えあう男女共同参画社会の実現を目指して！
平成23（2011）年度から平成27（2015）年度の5か年に男女共同参画社会づくりを進めるための基本的な計画として「草加市男女共同参画プラン2011」を策定しました。くらしの中にある男女の差別や格差を解消し、すべての人が性別にかかわらず支えあい、協力し合って、女性にとっても男性にとっても生きやすい社会である「男女共同参画社会」をつくることを目指した取り組みを推進します。

計画の主要な取組

1 男女共同参画社会実現に向けた意識啓発の推進

社会制度や慣行、固定的性別役割分担意識を解消し、男女共同参画に関する認識を深め、定着させるための広報・意識啓発活動を積極的に推進します。

2 配偶者等からの暴力防止対策の推進

「配偶者等からの暴力防止及び被害者支援基本計画」をプランに位置付け、配偶者等からの暴力防止対策の計画的な取組を進めます。

3 市の政策・意思決定過程への女性の参画促進

あらゆる分野において、政策・意思決定過程への女性の参画促進に努めます。市は、市役所の女性管理職について、「2015（平成27）年までに15%」との目標を設定しています。

4 男女共同参画拠点施設の整備促進

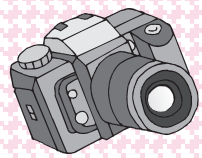
本市では、草加市文化会館の図書資料室を「男女共同参画さわやかサロン」として、男女共同参画推進の活動拠点として位置付けています。よりよい拠点施設の整備促進に向けた取組を進めます。

※このプランは、草加市ホームページのほか、草加市役所人権共生課、情報コーナー、男女共同参画さわやかサロン（草加市文化会館2階図書資料室）、その他公民館等の市内公共施設で閲覧できます。



『草加市男女共同参画プラン2011』

イクメン・カジメン写真展



男女共同参画さわやかサロンで家事や育児を女性の役割と固定せず、男女が共同で行う社会の推進を目的に開催。来場者の投票で選ばれた4点の力作。



「お父さんの背中争奪戦!!」
花栗4丁目 桜井 智子



「お父さん、おむつ交換おねが〜い」
稲荷3丁目 田村 博邦



「初プランコwithお父さん」 谷塚仲町 大塚 知之



「料理 大好き」 青柳4丁目 須藤 松枝

3・11を振り返って

災害と男女共同参画

あれから9ヶ月

3月11日に発生した東日本大震災は日本中に大きな傷跡を残しました。草加市内でも、11月1日現在98世帯220人が避難生活を送っています。16年前の平成7年に発生した阪神淡路大震災以来、避難所の運営や、被災者支援などに関して女性や子ども、障がい者など弱い立場にある人への配慮が意識されるようになってきました。

「それゆえ」では、男女共同参画の視点から3・11を振り返り、配慮の実態と課題をともに考えたいと思い、草加市内に避難されている方・市内から被災地支援に行った方・消防から派遣された職員にお話を聞きました。

個人でボランティア

避難所でケバブとサラダの炊き出し

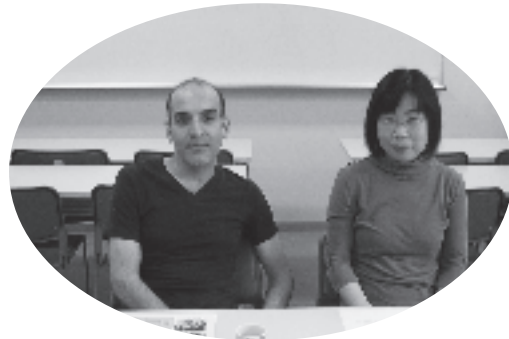


マジッドさん・井上さんは、イラン人と日本人のご夫婦。お名前はもうなっているのか聞いたところ「イランでは夫婦別姓なので、マジッドと井上なんですよ。それぞれ『氏』バィラムアリ・ジャビディ(名)マジッド」と「井上奈奈子」です。」と、とてもやさしい感じでお話を始められました。

Q 東日本大震災で被災地支援に行ってきたきっかけは？
A イランでも地震などの災害があり、子どもの頃から役に立ちたいと思っていました。今回の地震と津波をみて大変だと思い行動しました。

Q どのように支援を行いましたか。
A チラシを作って近所に配り、支援物資を集めました。家の前に「自由に取ってください。」と書いた段ボールを置いたのですが初日は全く反応がなく、2日目からどんどん持ってきてくれました。古いワゴン車を買ひ、5月の連休に友人6名と3台の車で石巻市へ行き、空店舗の駐車場をお借りして物資を配りました。

2回目は5月末に石巻市大須小学校へ行きました。この時は妻も一緒に行き、支援物資の配布とケバブ(鶏肉の串焼)とサラダの炊き出しをしました。避難所は、朝はおにぎりと漬物、昼はパン、夜はごはんとおかず一品程度なので炊き出しがあるとうれしいようでした。



避難所の運営ですが、避難所ごとにリーダーを決め、ボランティアの受け入れなども決められる方がよいと感じました。リーダーは男女同じ比率で決めると良いですね。

みな、東北の人のことを忘れてはいけません。忘れずに長い時間をかけた支援が必要です。テレビやインターネットで被災者が願っている支援は何かを知り、それを実行したいですね。



ご協力くださった皆様ありがとうございました。

消防署を訪ねて

消防署を訪問して3名の消防士の方からお話を聞きました。

派遣された現地で

消防署副署長代理加崎政秋主任より、今回の大震災で緊急消防援助隊として現地に行った体験を、写真を見ながら聞きました。

埼玉県から5泊6日の日程で派遣された各市町村の消防隊は、1隊5名のメンバーで順次現地に集結し、活動したそうです。3月の

寒さの中、がれきりの中の遺体捜索やテント生活など、心身共に厳しい現地で活動の様子を聞き、本当にお疲れ様という思いが湧きました。

支援は、現地の方と直接触れ合う任務ではなかったが、撤収して帰るときに町の方からかけられた「ありがと〜」の声は忘れられないとのことでした。

話の中で、女性の活躍について質問したところ、今回のような緊急支援や特に危険な任務には男性隊員が任命されることが多いとのことでした。

まずは、一日過ごせる準備を。消防本部消防防災課防災係森淳一主査 松沢理恵主事に草加市の自主防災についてお話を聞きました。

阪神大震災の経験を生かし、自治体等で開設する避難所の運営委員の中には、必ず複数の女性をメンバーに入れること、女性に配慮した着替え、授乳スペースの確保、建物の中にトイレを設置すること、安全安心が考慮されていること、女性に弱い立場になりません。停電により真暗で危険な

旅館で待つ間に、吉町集会所が用意された約2週間滞在。その後旧花栗小避難所で1ヵ月半を過ごしました。

避難所生活では阪神大震災の時の問題を聞いていたのに実際にさされたようですが、実際には着替えや洗濯物の干し方に多少気がちよつと恐ろしかったこと位で快適に過ごせたそうです。

現在、子どもたちは草加市内の小学校・保育園に通っています。同じように自主避難した知人の多くが、今ではいわき市に戻っているそうです。

子どもたちからは「どうしてパパと一緒に暮せないの?友達と離れてるの?」と聞かれます。一人暮らしの夫のことも気になり、家もあり、両親も住んでいる故郷にいつか帰りたいの思いは強いが、いわき市では今も大きな地震が多く、放射線量の値も高くまだ帰れないと語ります。

子どもたちは「原子力発電所の爆発でいわきの空気が放射能で汚れてしまった。その空気をたくさん吸うと体に良くないから」と話しています。

塚越さん姉妹は、まだしばらく草加市での生活が続ける予定だそうです。



田巻美智子さん

3月11日の境に、田巻さん一家の生活は一変。幸い家族全員無事でしたが続く余震と原子力発電

所の爆発に、4日後「子どもだけでも避難させよう」と草加から駆けつけていた親類に二人の子どもたちを託しました。

3月19日、更に続く爆発に自分たちも避難を決意。ともかく子どもたちのいる草加に向って車を走らせました。

「今近くまで来ているのですが、草加市役所に電話、市の素早い対応で、まず青柳消防分署でスクリーニングを受けました。次に案内された吉町集会所にはすでに清潔な寝具が用意されていて、環境もよいと合流し6〜7家族30人前後の避難者の方たちと一緒に10日間余り滞在。その後、旧花栗小避難所で1ヶ月半過ごしました。

避難所生活は、入所者の中で自然にルールができ、ちよつとした

問題があってもそのつど話し合っで解決。部屋割りは一部屋に二家族、仕切りは無かったけれど、年代が近い家族が多く、又少人数だったせいか和やかに暮らせたそうです。

現在、田巻さんは夫と中3、小6のお子さんの4人家族で生活しています。

子どもたちは市内の学校へ通学し、田巻さんは知人の紹介で仕事をしています。

震災で職を失ったご主人の再就職が難航している、長男の高校進学、自主避難であるため国や東電からの支援が無いなど不安は多いけれど「母親が明るく元氣なら何とかなるもの」と笑顔で語ってくれました。

ありがと〜!草加 塚越さん、田巻さんの避難生活で口をそろえて語られるのは、草加市と市民の方々の温かい支援への感謝の言葉です。

食事は、吉町集会所では市民グループによる毎日三食の温かい家庭料理の炊き出し。旧花栗小では毎日食料が届けられての自炊。生活用品は物資の寄付が溢れるほどに届きました。

毎日大勢の市民ボランティアの方が「困ったことは?足りないものは?」と訪れてくれ、全員が食事に招待されたことも。さらにノートが備えられ足りない品を書き出しておくとすぐに届けられました。掲示板にはいつも新しい情報・入浴施設や美容室の利用、子どもたちが運動できるようなと市の体育館の利用など多くの細やかな配慮があったそうです。

今回お話を聞いた3人の女性たちは皆、子どもを守るために決断し行動しました。母として子どもの将来を考えた時、迷いは無かったでしょう。

被災地の1日も早い復興をお祈りします。

うことでした。

防災備蓄倉庫の主な内容
発電機・水・アルファ化米(二部の避難所)・ガソリン・紙オムツ・簡易トイレ・粉ミルク・毛布・下着・ローラマット・生理用品・浄水器・調理セット・大型救急箱・救出資機材など

個人の備えて忘れがちな物
着がえ(子ども用は成長に合わせて点検)・本・オムツ・子どものお気に入りのオモチャ・ビニール袋・電池・ティッシュ・現金(小銭も)・保険証等のコピー・家族の写真・住所録(携帯アドレス)・メガネ・コンタクトレンズ・常備薬・おくすり手帳・軍手・爪切り・新聞紙・油性マーカーなど

それいゆ川柳

私の大当たり

「それいゆ」第62号で募集し
皆様からお寄せいただいた作品です。

❖雇用難 定年獲ち取り 大当たり
谷塚仲町 またべ けんじ

❖連れ合いが なにも勝る 大当たり
八幡町 小島 久

❖我がエッセイ 新聞に載り 大当たり
弁天 山本 愛子

❖年金が 俺より多い 妻を持ち
氷川町 只野 広平

❖昼カレー 夜もカレーだ 大当たり
谷塚仲町 五十嵐 正幸

❖結婚と 二人の子供 出来た事
原町 河野 隆

❖産んだ子は 娘ばかりや 嫁知らず
金明町 吉澤 ふさ子

❖人生は プラスマイナス ゼロでよし
栄町 田中 典子

❖能なくも 人間に生まれし我 大当たり
原町 大平 勝朗

❖超未熟児の私が 生きてることが 大当たり
瀬崎町 渋谷 栄子

❖思いやり 夫婦の絆 深まりて
新里町 小林 栄子

❖それなりに 素直に育つ 孫達が
谷塚町 小堺 二六

次号の作品(俳句)募集

テーマは「家族」
コメントを添えて、ハガキ、FAXまたはEメールでご応募ください。

《締切》平成24年5月7日(月)まで
《送り先》〒340-8550草加市高砂1の1の1
草加市役所人権共生課

《電話》048-9222-0825
048-9227-4955

《FAX》048-9227-4955
《Eメール》jinken-kyosei@city.soka.saitama.jp

お出かけください

男女共同参画

さわやかサロン

草加市文化会館
2階 図書資料室

「男女共同参画さわやかサロン」は、
男女共同参画社会の実現を目指すた
めの活動・交流・情報発信の拠点。
男性、女性誰でも世代をこえて気軽
に利用できます。

●情報収集・提供

約550冊の図書があり、貸
し出しもしています。

月刊誌、行政資料、各種広報紙、
民間団体・サークル等の各種情
報を提供しています。

●イベントについて

予定

・2月(24年)

「学習会」「写真展」

報告

・7月15日(金)～8月31日(水)

「ありがとうの気持ちを書く」こ
作品展

・8月27日(土)

親子料理教室

・10月・11月・12月

「ひなんしゃ・つながりカフェ」

・11月8日(火)

ピアノ&トーク

・12月

DVパネル展・DV防止セミナー
ナール展

おすすめ図書是非ご一読を!!

「女たちが語る阪神・淡路大震災」

著者：ウイメンズネット・こっぺ
出版：ウイメンズネット・こっぺ

未曾有の災害から立ち上がった
女性達の生の声の記録。東日本
大震災においてはどのように活
かされたか・・・

「災害と女性」
「防災と復興に女性の参画を」資料集

著者：ウイメンズネット・こっぺ
出版：ウイメンズネット・こっぺ

阪神・淡路大震災から10年以上たった神戸からの発
信、新潟中越地震、諸外国の被災女性や支援に動い
た女性たちからのメッセージが詰まっている。

「百歳」「くじけないで」

著者：柴田トヨ
出版：飛鳥新社

トヨさんの詩の魅力は、若い枝のように心をしなわ
せ、そよがせているところ。涙の味を知っている人
の人生観から生まれたウィットが心をもみほぐして
くれる。

「男ひとりさま道」

著者：上野千鶴子
出版：法研

死別、離別、非婚シングル、老後に生きる道はあるか。
在宅一人死はこわくない。たくさんのヒントが満載。

「元始、女性は大陽であった」

著者：平塚らいてつ
出版：大月書店

平塚らいてつ自伝。封建的な時代のなかで、わずかに
許されていた文学をとおし、いろいろの矛盾を感じ、
自我に目覚めていく。最初の女性文芸雑誌「青鞥」
を発刊し、多くの女性に感銘を与える。

女性の生き方なんでも相談 (予約制)

ひとりで悩まないで！女性相談員（専門カウンセラー）が気持ちの整理のお手伝いをし、問題が解決していくよう一緒に考えます。

：実施日時 毎週木曜日・第1土曜日 午後1時～5時

：場所 草加市文化会館内 相談室

：予約受け 男女共同参画さわやかサロン

（草加市文化会館2階 図書資料室）

電話931-9325内線50

★個人の秘密は守ります ★相談は無料です

配偶者暴力相談支援センターのご案内

「DVは一人で悩まず相談を」

配偶者からの暴力は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。草加市では、配偶者暴力相談支援センターを設置し相談や支援につとめています。

相談は、予約制で専門の女性相談員が対応し、面接のほか電話でも可能です。秘密は厳守します。

（相談日及び時間）

毎週、月・水・金曜日の午前10時～午後4時 緊急の場合は、午前8時30分から午後5時まで受け付けます。

（場所）

草加市役所人権共生課内
（電話）048-9222-3562

編集後記

「青鞥」創刊100周年記念国際シンポジウムが、らいてつの母校・日本女子大学で9月に開かれました。米・仏・韓の研究者、青鞥と女性史、自国との関わりなどを話し合ったそうです。この100年の歴史と女性解放史を考えた時、勇気ある女性達の活躍と青鞥の重要性を改めて感じました。（S・T）

いつも「それいゆ」の編集会議を開く文化会館2階の男女共同参画さわやかサロン。会議中もいろんな方々がふらりと訪れてくる部屋だ。その部屋の窓から眺める綾瀬川、松並木、草加の街、見慣れた景色に今日も変わりは無い。今号の特集「東日本大震災」の取材の中で、変わらない見慣れたもののおかげがえのなさを思う。（T・O）

今年は、3月に大震災があり、日本だけではなく世界中が様々な「これから」を考えさせられた年だったと思います。突然、身に降りかかる出来事にどう対処してゆけるか？女性として危機感を持たなければならぬという事実を学び、お互いを思いやる心を多くの人に持つて欲しいと思います。

編集協力員の方をはじめ、今回出会えた方々との時間は、大変貴重で楽しい時間でもありました。男女共同参画が広まるように参加者の一人として今後少しでも力になればと思います。（M・T）